

## 4.1.5 箱根西麓の畑地

## (1) 植物

三島市内の佐野、元山中、笹原新田など比較的傾斜が緩い場所は、畑地として利用されています。このような畑地周辺では、69科 167種の植物が確認されました。栽培されている作物は大根、白菜など様々です。現在も利用されている畑地の雑草には、オオイヌノフグリ、カラスノエンドウ、ホトケノザ、エノキグサ、スベリヒユ、ザクロソウ、メヒシバ、エノコログサなどが見られます。除草が行われるため、一年草<sup>(16)</sup>が多いのが特徴です。利用されなくなった畑地は、オオアレチノギク、メヒシバなどが入り込みますが、いずれはススキの草地に移り変わっていきます。



春 2002/4/3



夏 2002/7/9



秋 2002/10/10



冬 2003/1/9

(佐野)

### ヒメオドリコソウ(シソ科)



空き地、堤防、畑地の周辺などに生育する高さ 20～40cm 程の草本植物<sup>(14)</sup>です。ヨーロッパ産の帰化植物で、本州にのみ分布しています。秋に発芽し、3～5月頃赤紫色の唇形の花を咲かせます。市内では、低地から丘陵地の道路脇を中心に広く見られます。

【撮影：2002/4/9 佐野】

### ハハコグサ(キク科)



畑地、あぜなどのやや湿った場所に生育する高さ 15～40cm 程の草本植物<sup>(14)</sup>です。主に秋に発芽し、ロゼット<sup>(40)</sup>で越冬します。このロゼットは食用として用いられ、春の七草の一つとしても有名です。4～6月には黄色い小さな花を咲かせます。低地から丘陵地の道路脇を中心に広く見られます。

【撮影：2002/4/9 佐野】

### オオイヌノフグリ(ゴマハグサ科)



畑地や道路脇に生育する高さ 20cm 程の草本植物<sup>(14)</sup>です。ヨーロッパ原産で、明治時代初期に帰化し、その後日本各地に広がったと言われています。秋に発芽し、1～6月頃、1cm 程のりり色の花を咲かせます。低地から丘陵地の道路脇を中心に広く見られます。

【撮影：2002/4/9 佐野】

### スズメノカタビラ(イネ科)



道路脇、空き地、畑地、果樹園、ゴルフ場などに生育する高さ 10～30cm 程の草本植物<sup>(14)</sup>です。繁殖力が盛んで踏みつけに強く、春の畑地では、防除が困難な雑草とされています。秋に発芽し、3～5月には淡緑色の小穂を多く付けます。低地から丘陵地の道路脇を中心に広く見られます。

【撮影：2002/4/3 梅名】

### カラスノエンドウ(マメ科)



道端や畑、野原など、日当たりのよい所に生育するつる性の草本(そうほん)です。豆果<sup>(41)</sup>が黒く熟したものをカラスにたとえ、この名が付けられました。3~6月頃紅紫色の花を咲かせます。低地から丘陵地の道路脇を中心に広く見られます。

【撮影：2002/4/9 佐野】

### ホソアオゲイトウ(ヒコ科)



都市近郊の荒地、放棄された畑、川岸などに群生する高さ1~2m程の草本植物<sup>(14)</sup>です。南アメリカ原産の大型の帰化植物で、明治時代後期から大正時代初期に渡来したと言われています。春に発芽し、7~10月頃、緑白色の花がたくさんつきます。市内では、低地から丘陵地の荒地を中心に広く見られます。

【撮影：2002/10/22 松毛川】

## (2)動物

箱根西麓の畑地では、哺乳類4科5種、鳥類20科43種、は虫類2科3種、昆虫類4科12種が確認されました。

### 哺乳類

モグラ属の種・アカネズミ・ハツカネズミ・キツネ・ニホンイノシシが確認されました。小型哺乳類を対象とした捕獲調査では、30個のワナに対して11頭捕獲され、調査を行った7ヶ所の中で最も多く捕獲されました。畑に植えられている野菜や放棄された畑に繁茂する雑草の種がネズミ類の良い餌になっているのだと思われます。また、ネズミ類が豊富であることから、ネズミ類を餌とするキツネにとっても、箱根西麓の畑地は良い餌場になっていると思われます。地元の農家の人からは「夕方になると、農道でキツネを見かけることがある」との情報が得られています。

### 鳥類

畑周辺の林縁や林の上空で見られた鳥類も含めると43種の鳥類が確認されました。畑を利用する主な鳥としては、キジバト・セグロセキレイ・カワラヒワ・スズメなどが見られました。調査は台崎と佐野の畑地で行いましたが、台崎は広く平坦な地形に造成されているのに対し、佐野は元々の地形に沿って畑と林がモザイク状に混在していることから、同じ畑地であっても台崎にはヒバリ、佐野にはモズやホオジロが多いという特徴がありました。

### は虫類・両生類

は虫類のオカダトカゲ・シマヘビ・ヤマカガシが確認されましたが、生息状況についてはよく分かっていません。ヘビ類は畑にすんでいるネズミなども餌としていることから、時々見ることが出来ると思われます。畑の規模・作物の種類・周囲の環境などにもよりますが、この他のは虫類も生息していると考えられます。

一方、両生類は確認されませんでした。一般に畑地は乾燥しており、両生類にとっては生息に適した環境とは言えません。

### 昆虫類

畑地の環境では、地上を徘徊するオサムシ類やアリなどを主な対象としたベイトトラップ調査(紙コップに糖蜜と酒を混ぜたものを入れ、臭いに引き寄せられコップに落下した昆虫類を採集する方法)のみを行ったため、確認された種類数は少ない結果となっています。

畑地で確認されたのは、コウチュウ目とハチ目アリ科の昆虫でした。主に見られたのは、コウチュウ目では、アオオサムシ・セアカヒラタゴミムシ・アカガネアオゴミムシなどのオサムシ科の昆虫類、アリ類ではアズマオオズアリ・トビイロケアリ・ハヤシクロヤマアリでした。

### ハツカネズミ



体の長さが 58～92mm、尾の長さが 48～74mm 程の小さなネズミです。雑食性ですが、特に植物の種子を好みます。一年中繁殖していますが、野外に棲んでいるハツカネズミは春と秋に主な繁殖期があります。

【撮影：2002/2/28 佐野】

### キツネ



体の長さが 52～76cm、尾の長さが 26～42cm です。尾が太長く、横に伸ばしています。雑食性で、冬～春はネズミ類やノウサギ、夏～秋は昆虫類や果実類をよく食べます。

【撮影：2002/3/8 芦ノ湖高原別荘地】

### オオヒラタシデムシ



体長 18～23mm のコウチュウの仲間、動物の死体を餌としています。林道などで轢かれたヘビや哺乳類に、幼虫や成虫が集団で集まっていることがあります。

【撮影：2002/9/24 長伏】

### アオオサムシ



体長 22～33mm、背面の色は金銅色・緑銅色・緑など様々ですが、多少とも緑色を帯びる美しいオサムシです。後の翅(はね)は退化し、空を飛ぶことができません。肉食性で地上を徘徊(はいかい)して餌のミミズなどを探します。

【撮影：2002/8/2 長伏】